

インバウンド再開を踏まえ、国立公園満喫プロジェクトの更なる展開として、民間活用による国立公園利用拠点の面的な魅力向上に取り組み、美しい自然の中での感動体験を柱とした滞在型・高付加価値観光の推進を図る。

- 2023年1月～6月に有識者検討会を開催。民間提案を取り入れた国立公園ならではの感動体験を提供する宿泊施設を中心とした利用拠点の面的魅力向上の方向性や進め方を検討し、「宿舎事業を中心とした国立公園利用拠点の面的魅力向上に向けた取組方針」を策定。

国立公園の利用の高付加価値化

- 国立公園の魅力的な自然環境を基盤とし、地域の歴史・文化・生活を踏まえた、本物の価値に基づく感動や学びの体験を提供し、利用者に自己の内面の変化を起こす。
- 関係者が、持続可能で責任ある観光の姿勢を共有し、保護と利用の好循環を目指す。

滞在体験の魅力向上のための先端モデル事業の対象とする4つの国立公園を選定。

国立公園名	選定のポイント
十和田八幡平国立公園（十和田湖地域）	利用拠点の再生による新たな魅力づくり
中部山岳国立公園（南部地域）	山岳地域の利用の高付加価値化を含めた広域連携
大山隠岐国立公園（大山蒜山地域）	日本の伝統的自然観や歴史文化を踏まえた自然体験の拠点づくり
やんばる国立公園	世界自然遺産登録地域周辺における自然を活用した地域活性化

※選定の考え方

以下の4点を踏まえ、将来的な他地域への展開も見据えて環境省が選定

- ①広域的な利用推進の観点があること
- ②国が取組を調整・実施する意義や効果が見込まれること
- ③地域の合意形成の枠組み、利用の行動計画、環境省の体制等の基盤があること
- ④滞在型・高付加価値観光を行う具体的な利用拠点の候補を含むこと

- 選定した対象公園において、該当公園の利用の高付加価値化に向けた基本構想を検討。基本構想の検討にあたっては、民間提案を募集し、推進枠組みを検討。
- 推進体制の構築状況や国立公園としての滞在型・高付加価値観光を進めるポテンシャル等の観点から、2024年度から集中的に取り組む利用拠点を選定。

2024年度～

民間の発想を活かした滞在体験の魅力向上をパッケージで実施

(イメージ図)

